第 300 号
平成14年（2002年）6月14日

関西大学通信
THE KANSAI UNIVERSITY NEWS

関西大学広報委員会
〒564-8680
大阪府吹田市山手町3-3-35
FAX 06-6337-7078
http://www.kansai-u.ac.jp/

創立三十五周年記念講演会（壇上は三宅雄二郎）

古人の声に耳を澄ます

山野　博史

大正十年十二月十一日、大阪中之島の中央公会堂での関西大学創立三十五周年記念講演会に臨んだ三宅雄二郎（初めの名は雄次郎。雪嶺と号す。一八六〇―一九四五）の演題は「外より観たる大阪教育」であった。

「三宅雄次郎。『其の文は即ち堅板に水、其の弁は即ち横板に飴』、「しかも三宅は好んで演壇に立ち、訥弁の雄弁をもって称せられた。明治・大正・昭和を通じての言論界の巨人は、この人であった」（森銑三『史伝関歩』昭和60年9月20日、中央公論社）が、この日の講演記録は、明治四十年一月一日の創刊以来、雪嶺自ら主筆を務めた「日本及日本人」第八二七号（大正11年1月15日）と関西大学学友会雑誌「関西論叢」第八巻第一号（非売品、大正11年2月7日。上と左の写真の初出掲載誌）の二誌に掲載されたきりである。

いまなお傾聴にあたいする内容をかいつまんで要約するとこんなふうになるだろうか。

帝国大学令、高等中学校令などが出た明治十九年、教育に冷淡な大阪で関西大学が種を蒔き、芽を出し、伸び方は遅いけれども確かに伸びている。

前列左から四人目が三宅雄二郎

大阪では初等中等は盛んでも、高等教育は盛んでなく、その証拠には、ここに唯一の私立大学たる関西大学が東京にいくつもある私立大学と等しいくらいであるが、余り大きな顔が出来そうもない。東京の大きな私立大学は政府の力を借りず、随分政府にいじめられたが、あれ迄に発達しており、大阪の方はそれ程いじめられずに発達が遅いとはどういうことか。

私立は幾多教員の内職所、民間の不平連を養う所と思われ、随分いじめられたのだが、国力の増進に伴い、政府は漸く私立も官立同様になり得ると考えつき、終に大学令の下、官公私の区別なく、相当の設備あるものは許すことになった。

関西大学もそうなる日は遠くないが、遠くないに決まっているとし、官立と同じになりさえすればよいのか。

或る建物に何年かを費すのは中世期頃の教育法である。今のように印刷物や通信が自由で、電信、電話、様々の設備がある時代に、中世期の如く或る建物の中で人を容れ一定の年数を費すのは時代錯誤も甚しい。

関西大学は大阪の必要、関西地方の必要を認めて出来上がり発達するらしい。それは結構であるが、大阪はこれ迄の官設の帝国大学と違い、外から拵えてくれるのを頼まず、自分で身体の力を伸ばすと共に、精神の力を伸ばし、段々と伸ばして最上に達しようとするように思われる。捨てて置いても百年二百年すればなるのだが、そう長い間かかるのは大阪人の面目でなく、もう少し何とか出来そうなものである。

関西大学が大学令により設立認可され、法学部、商学部と大学予科を設置したのは大正十一年六月五日であるが、それから八十年。

三宅雪嶺の疑問や助言はほこりにまみれた古証文でしかないと一笑に付してよいものかどうか。

（法学部教授）

HEADLINE

2面　二〇〇三年度入学試験の実施概要決まる
3面　短水路800㍍自由形で世界新記録樹立
―山田沙知子さんに聞く
4・5面　**300号記念特集―関大生へのメッセージ**
6面　エクステンション・リードセンター
夏期集中コース・後期開講講座案内
8面　関大生Fashion Navi

千里眼

六月は梅雨の季節だ。この時期、雨が多くて気も重くなる。とはいえ、雨が降らなくても、農作物の収穫やダムの水位に影響が生じ、これも困る▼ところで、「梅雨（つゆ）」といえば、以前からその名称が気になっていた。調べてみると、まず、漢字の語源は、中国の言葉「バイウ」にあるようだ。揚子江流域で、梅の実の熟す時期に雨期があるため、梅雨と呼ばれる。また、訓読みの「つゆ」の語源は、葉などに降りる「露」にあるという。梅は、冬から春先までの厳寒の中も咲き続け、長雨の中で実を結ぶ。中国では、古来より、梅の姿を心に秘めた忍耐になぞらえてきた▼ひるがえって、関大生が梅雨の時期にどう過ごしているか気になった。四回生は就職活動で厳しいらしく、「もう就職活動はやめた」など諦めの声も小耳に挟む。この時期、多くの学生が試練にぶち当たっているようだ。だが、彼（彼女）らにも必ず収穫期が来る。その時を信じて、この時期は梅のように忍耐強く過ごしてほしい。

（片岡　進）